

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和5年10月

（1）さやいんげん栽培研修会で低温・日照不足対策を学ぶ

10月5日、与論町でさやいんげん栽培研修会を開催し、生産者、関係機関61人が参加しました。近年の課題は、12～2月期の低温、日照不足による減収や、基礎知識が乏しい新規就農者の存在があります。そこで、研修会では低温・日照不足対策実証成果を3事例を紹介し、併せて、土づくりや施肥・水・温度・草勢管理、IPM等生理生態を考慮した栽培技術を指導しました。参加者からは、「知らなかった情報で長年の疑問が解決した」等の意見があり、今後に期待が高まる研修となりました。



（2）徳之島・沖永良部畑かんマイスター意見交換会で交流を深める

10月4日、徳之島で令和5年度徳之島・沖永良部島畑かんマイスター意見交換会が開催され、畑かんマイスター10人（うち沖永良部3人）、関係機関15人が参加しました。現地視察は、畑かんマイスターのほ場を中心に行い、新規品目の取組状況等について説明を受けました。室内検討では、両島での畑かん利用状況や畑かん推進の課題等について議論し、相互理解を深めました。今後とも両島畑かんマイスターの交流を深めることで、畑かん営農の理解促進が進むことが期待されます。



（3）夏スプレーギクの出荷実績と輸送上の課題について検討

10月2日、沖永良部花き専門農協で夏秋スプレーギク出荷実績検討会が行われました。盆出荷の予約注文数（7月21日～8月16日）約107万本に対し、台風6号の影響で8月2日～11日分の約50%が欠品となりました。一方、9月出荷では、1か月間高値で推移しました。7月下旬から導入した鮮度保持シートの利用は、輸送トラブル等でも切り花品質が維持され実需者からの評価が高く、物流の2024年問題でも有効な方法と期待されています。今後も流通上の課題解決に向け、実需者と連携しながら進めていきます。



(4) ソリダゴの夏場の切り花品質対策を検討

9月27日、沖永良部花き専門農協の生産部会で、夏場に消費地でしばしば発生するソリダゴ（切り花）の葉や花の傷みについて、実証や生産者へのアンケート結果を検討し、対策を整理しました。①収穫直後の切り花の熱を逃がす（切り花の束の中心部の蒸れを改善）、②きれいな水道水で水揚げを行う、③急激な温度ストレスを避けるため、冷蔵庫への出し入れは頻繁にしない、④切り花は葉が濡れた状態で箱詰めしない等が整理されました。今後、生産者へ波及を図っていきます。



(5) 高齢者の就業支援対策として花きの栽培技術を学ぶ

10月25～26日、和泊町で60歳以上の高齢就業者支援対策として、花きの農業補助講習会が開催されました。座学研修は農業普及課や和泊町役場、実技研修は生産者が講師となり実施しました。研修者は、実技研修としてスプレーギクの挿し芽、本ぽでの定植、整枝作業、テッポウユリの定植作業、ソリダゴの定植作業を行い、初体験の花き作業を熱心に学んでいました。管内の花き栽培でも雇用対策は重要な課題で、今後もニーズにあった雇用対策の支援を行っていきます。



(6) 沖永良部島若手さとうきび農家が基本技術について学ぶ

10月23日、和泊町実験農場でさとうきび栽培研修会を開催し、若手を中心に、農家8人、関係機関7人が参加しました。最初に、実験農場ほ場の堆肥活用実証ほで、基肥の堆肥による化学肥料代替実証の現状を確認しました。室内研修では、沖永良部島のさとうきびほ場の実態や土づくり、生育初期の雑草防除の必要性、さとうきびの品種について学びました。農業普及課は、今後もさとうきびの生産安定に向け、若手農家に対する支援を継続していきます。

(7) 青年農業者がプロジェクトの取組や意見を発表

10月24日、えらぶ長浜館で、沖永良部地区青年農業者会議を開催し、農業青年クラブ員、指導農業士、関係機関等合わせて53人が参加しました。プロジェクト発表では、スプレーギクのマルチ栽培の取組、共同プロジェクトとしてアセロラ栽培（和泊）や新規品目探索（知名）、養蜂（与論）について発表しました。また、意見発表では、2人が今後の目標について発表しました。参加者からは助言や激励があり、クラブ員が互いの取組や目標を理解し、自分の経営について考える機会となりました。

